

## 『世界がもし 100 人の村だったら たべもの編』

世界には 65 億人の人がいますが、もしもそれを 100 人の村に縮めて〈たべもの〉のありかたを見してみるとどうなるでしょう。

100 人のうち、47 人は農村に、53 人は都市に住んでいます。  
畑を耕したり、家畜をそだてたりしてたべものをつくっている人は、20 人です。  
15 人がアジア人、3 人がアフリカ人、2 人が南北アメリカやヨーロッパなどの人です。  
20 人のうち、13 人はトラクターで、7 人は人の力で耕しています。

村人は、食事エネルギーの半分以上を、穀物からとっています。  
100 人の村人のうち、50 人は米を、26 人は小麦を、7 人はとうもろこしを、あとはいも類などを主食にしています。

村人 100 人のうち、16 人は 1 年を 110 万円以上で暮らし、いろいろなものをたくさんたべています。  
そのうち 2 人は日本の人で、1 年を平均 360 万円ですらしています。  
43 人は、1 年を 64 万円ですら、きちんとたべています。  
41 人は、1 年を 8 万円以下で暮らし、ときどきしかたべられません。

100 人のうち、太りすぎの人は、15 人です。  
アメリカでは、砂糖にすると、1 人が 1 日にティースプーン 50 杯分の糖分をとっています。  
日本では、12 杯です。  
アメリカの大人を 100 人とすると、60 人は太りすぎです。そのうち 14 人は超肥満です。  
アメリカの子どもを 100 人とすると、25 人が太りすぎです。アメリカでは、太りすぎが死亡原因の第 2 位です。

世界がもし 100 人の村だったら、1 年のあいだに、75 人は 20 キロの、25 人は 80 キロの肉をたべています。  
村ではこれまで肉類を食べるかどうかは風土や文化によりさまざまでした。  
でもいまは、お金があればだれもがたべるようになりました。  
1 人が 1 年にたべる肉は、インドでは 5 キロ、中国では 45 キロですが、イタリアでは、80 キロです。  
1 人が 1 年に食べる卵は、インドでは 30 個、アメリカでは 174 個、日本では 226 個です。  
家畜の餌は穀物です。  
肉や牛乳や卵をたべるということは、穀物をたべることです。  
たとえば、1 キロの牛肉をたべると、11 キロの穀物をたべたことになります。

この村でとれる魚を 100 尾とすると、18 尾を中国が、9 尾をペルーが、5 尾をアメリカが、5 尾を日本が、5 尾をインドネシアがとっています。  
でも、魚のとりすぎのため、村の 4 分の 3 の漁場で魚がへってきています。  
村人はこの 100 尾のほかに、50 尾の養殖の魚もたべています。  
養殖の魚は、囲われたところでそだてられ、脂がのりやすい餌をあたえられます。  
寄生虫を殺し、病気をふせぐためにいろいろな薬もあたえられます。

畑でトラクターをうごかし、化学肥料や農薬をつくり、たべものを工場で加工し、包装するものをつくり、運ぶには、石油がいります。

アメリカの4人家族は、1年にたべる牛肉のために、1000リットルの石油をつかいます。アメリカでは、石油の15%を、たべもののためにつかっています。

わたしたちが暮らす日本は、春夏秋冬、旬の食材にめぐまれています。そこでは、〈たべもの〉はどうなっているでしょう。

ヨーロッパは、せまい国がほとんどです。

でも、食料自給率は、フランスが121%、ドイツが99%、イギリスが61%です。

日本の食料自給率は40%です。

わたしたちのからだの60%は、よその国の資源をつかって、よその国の人がつくったたべものでできています。

わたしたちのたべものをつくっている畑の70%は、よその国にあります。

わたしたちのたべものをつくるために、よその国で1年につかわれる水は、日本でつかわれるすべての水の1.1倍です。

日本の穀物自給率は28%です。

砂漠の国、サウジアラビアは29%です。

大豆の自給率は5%。小麦も野菜も、おおかたは輸入です。

和牛の餌も70%以上は輸入です。

もしも日本でつくられるたべものだけでやりくりするとしたら、

わたしたちは1日2600キロカロリーとっているのを、1900キロカロリーにへらさなくてはなりません。

小麦を50%、肉を90%、油やバターを90%、魚を15%へらして、米を30%、いも類を600%ふやさなくてはなりません。

日本のわたしたちは、食費のうち8%を生鮮食品に、30%を外食に、62%を加工食品につかっています。

加工食品は日本が世界一たくさん輸入しています。

加工食品には、添加物が欠かせません。

日本では、1500種類の食品添加物を1人が1年に24キロたべていることになります。

小学生と中学生を100人とすると、朝食をかならずたべるのは77人です。

19人はたべないことがあります。2人はほとんどたべません。

70人は、給食をいつも、あるいはときどきのこします。

日本のわたしたちは、世界でいちばんたくさんのたべのこしを捨てています。

わたしたちが捨てるたべのこしは、年に2000万トン以上です。

世界の食料援助量は、年に1000万トンです。

『世界がもし100人の村だったら ③たべもの編』（池田香代子+マガジンハウス編）より一部抜粋